



【2018-12-19】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう



今週の雑感
身近にあった宿場

長野修二

身近にあった宿場

この地が江戸時代から栄えていたことは知っていましたが、身近なところ（近所）に宿場があったことは知りませんでした。

佐倉街道は、江戸時代に成田山新勝寺へ参詣するためのルートだったようですが、当時は今のように日帰りで行き来することはできませんから、当然ですが、街道沿いのどこかに宿が必要になります。

私は、それでも佐倉城近隣の城下町へ隣接しているのではないかと考えていましたが、当時は領主が住む場所に宿場はなく、近隣（今で言う近隣とは距離が違いますが）の街道沿いに宿場が置かれることが普通だったようです。

[歴史まちづくりの特性の見方・読み方](#)（国土技術政策研究所）

今の時代からみるとなんとも不便なところとってしまいますが、人々の往来は徒歩や馬だったことを考えると、とくに馬は大きな体ですから世話をするだけでも大変ですし、城下町近くで世話をする場所を置くことなど考えられなかったのでしょう。

近くにあった宿場（馬渡）は、今ではさびれており、むしろ現在の賑わいは城下町だったところそのものです。

人の往来が徒歩や馬から自動車やバス（町の中心を通る）などへ変わることで宿場の使命はおわり現在にいたっています。

それでも往時には、正岡子規も成田詣での途中で宿泊したらしく俳句を残しています。

この地に住んで約30年経ちますが、私はそのよう事実すら知らなかったのですから、この地から富士山を見られると知ったこと同様に、いかに余裕がない生活を送っていたかと、思い知らせれました。

今でも宿場跡には、いろいろな名残りがありますが、私には[酒蔵](#)が一番ですが、ここの[日本酒](#)だけはすでに飲みました。

また、日本へ遊びにきた妹の旦那（米国人）へプレゼントしましたが、ブランドが「佐倉城」なので海外の人への贈り物に最適でしょうか。

今でも宿場だったところのまわりは田んぼが広がっていますので
往時を思い出させてくれる風景です。

とてもどかでゆったりと時が流れていきます。

歩いていると、心の中で遠い昔をイメージできる景色がそこにあ
ります。

身近な自然とともに、歴史を感じさせてもらえるところに住んで
いるだけで、日々の暮らしが豊かになります。

案外、身近なところにいろいろな歴史の名残りがあるものですが、
気づかないのは、まわりを見渡す余裕がない自分がいることでは
ないでしょうか。

若い時分からこのような余裕があったらと思うのは、私だけかも
わかりません。